いやさか

26号

日本ボーイスカウト
日野第2団・第5団
1983・4・10発行

見る目
聞く耳
つかえる手を

高幡ＣＢＳ育成会長　Ｊ.Ｃ.ロワゼール

ドイツの王・フレデック王はある時、ブランデンブルクの学校を訪問しましたが、ちょうどその時、社会の授業でした。王さまはひとりの子どもに、「生まれたところはどこか？」とこころみてたずねてみました。子どもははっきりとした声で、「プロシャです」と答えたので、王さまは「プロシャはどこにあるかね」とさらにたずねました。「ドイツに」と子どもは答えました。「ドイツは？」「ヨーロッパに」「ヨーロッパはどこにあるか知ってるかね？」重ねて王さまは聞きました。子どもは目を輝かせて、ちょっと考えてから「この世界は神のみ手の中にあります」と答えました。

日野二団と五団の昭和五十八年度の一年間のテーマは「観察」とさめました。わたしたちは、目をひらき、耳をすまして、自然などの中で、いろいろ見つめてやることが山ほどあります。スカウトは「観察できる者」とＢ・Ｐは言われました。そして、スカウテイング・フォア・ボーイズという班長への本の中で、Ｂ・Ｐは観察のやりかたについて、いろいろのことを紹介してくださいます。観察ということはスカウトがその生活しているところで、「気をつける」ということであります。本当によく気をつけたら、自分のいままで知らなかった、思いがけもしなかったすごい現実を発見できるのです。Ｂ・Ｐはこう書いてくれました。

人の態度や服そうに気をつけて、あれこれ結びつけて考えると、時には、その人が悩みをもっていて、援助や同情をもとめていることがわかり、スカウトの大事な義務のひとつ〝悩みのある人をできるだけのことをして助ける〟を実行することができる」

スカウトはいろいろ観察した結果、あの

フレデリック王に答えた子どものように「わたしたちは、神の手の中に生き、働き、また存在していると発見したら、なによりすばらしいことです。もし、わたしたちが、どんなことにおいても神の力と愛とをながめ、感じるなら、わたしたちの生活はどんなに美しく安らかなものになるでしょう。

ことし、ひとりひとりのスカウトは、こんな気のきいたスカウトになることを祈りたい。

五十八年度活動方針

日野二団CS一隊隊長　猪股　禾男

今、全国の中学校で吹き荒れている暴力の嵐は、つきることがないかのように、日夜報道されています。

このような暴力行為の根は、小学生時代、即ちカブスカウトの年代における日常生活の中にあると言っても過言ではない・と数多くの人々が述べております。

即ち　幼い時に躾をたたきこまれていないので堪え性がない。

生まれた時から物質文明の恩恵を充分すぎる程受けているので、困難に耐えることを知らない・もっとも大切な精神の気高さも教えられていない・等々です。

このような現状を踏えて、現在の学校や家庭でなすべき教育で抜けているものは何かを考えてみますと、それは、子供に自己決定のできる体験を積ませることと、その過程で自

覚するであろう心の絆の大切さではないでしょうか。

そこで、日野二団一隊の今年の目標は、野外活動の中からめばえる縦方向の仲間作りによる自分自身の位置づけ、集団行動の中から規律と忍耐を覚え、農作業によって労働と収穫の喜びを、そして、自然環境の中から神を自覚させていきたいと考え、プログラムを作りました。

ご父兄の皆様のご協力をお願い申し上げます。

五十七年度
高幡ＣＢＳ育成会臨時総会報告

五十七年度高幡ＣＢＳ育成会臨時総会が、二月二十七日午後二時から光塩幼稚園講堂で開かれました。

臨時総会の議題は下記の通りで、五十八年度高幡ＣＢＳ育成会、日野第二団、第五団の年間行事、予算、役員が提案通り決まりました。

五十八年度の各隊リーダーも別記のように紹介され、新年度のスカウト活動の体制が整いました。

また、永年団委員として活動されました、武山智（十一年間）、島田京子（十一年間）橋本禎昭（七年間）の三氏に感謝状がおくられました。（出席者　八十二名）

▽議題

一、育成会長挨拶
一、五十八年度　育成会、団年間行事案
一、五十八年度　育成会、団予算案
一、五十八年度　育成会、団委員の選出
一、その他
①　五十八年度　各隊リーダーの紹介
②　日野市ＢＳＧＳ連合協議会への加入
③　月の輪のキャンプについて
④　野別基金について
⑤　感謝状贈呈

五十八年度高幡ＣＢＳ育成会・日野第二団・第五団年間行事

月	行事	団委員会・団会議
4	3日 復活祭 10日 ＣＳ隊入隊式 ＢＳ隊上進式	3日 団委員会 17日 ＢＳ・ＧＳ合同会議
5	15日 さつき祭	8日 団委員会 隊長会議
6	26日 高幡ＣＢＳ育成会 定例総会	6日 団委員会 進歩会議 12日 ＢＳ・ＧＳ合同会議
7	28日～8/1 ＢＳ隊夏期野営	3日 団委員会 団会議
8	5日～8日 ＣＳ隊夏期野営 ＳＳ隊移動野営 28日 キャンプファイヤー スカウト祭	7日 団委員会 団会議 14日 ＢＳ・ＧＳ合同会議
9	11日～10/6 ＣＳ隊新入隊募集 17日 グリーンシニア隊 上進式 18日 月の輪発隊式 カソリックＢＳの日	4日 団委員会 隊長会議
10	1日 赤い羽根募金 30日 硲多摩地区ラリー 日野市文化祭	2日 団委員会 進歩会議 9日 ＢＧ・ＧＳ合同会議
11	13日 ＣＳ隊新入隊員面接	6日 団委員会 隊長会議 20日 ＢＳ・ＧＳ合同会議
12	18日 クリスマス会	4日 団委員会 進歩会議
1	8日 もちつき大会 ・ ＣＳ隊仮入隊	8日 団委員会 隊長会議 15日 団会議
2	19日 ＢＰ祭 26日 高幡ＣＢＳ育成会臨時 総会	5日 団委員会 12日 団会議 19日 ＢＳ・ＧＳ合同会議
3	31日 ＳＳ隊上進式	4日 団委員会 11日 団会議 18日 団委員会

五十八年度予算

◎高幡CBS育成会

収入の部

項目	金額(円)	備考
前年度繰越金	150.000	
育成会費	6.660.000	3.000円×185人×12月
入団金	48.000	2.000円×24人
助成金	60.000	30.000円×2団
雑収入	100.000	
計	7.018.000	

支出の部

項目	金額(円)	備考
団運営費	2.158.000	2団 1.423.000 (隊員118人) 5団 735.000 (隊員67人)
キャンプ費	4.440.000	2.000円×185人×12日
備品費	20.000	
事務消耗品費	150.000	
管理・光熱費	50.000	
会議費	50.000	
予備費	150.000	
計	7.018.000	

◎日野第二団

収入の部

項　目	金　額(円)	備　考
育成会より	1.423.000	
計	1.423.000	

支出の部

項　目	金　額(円)	備　考
プログラム援助費	540.000	CS隊 365.000 BS隊 90.000 RS班 85.000
備品費	290.000	CS隊 40.000 BS隊 23.000 SS隊 177.000 RS班 50.000
登録・保険費	160.000	登録費 120.000 保険費 40.000
行事費	95.000	さつき祭 5.000 スカウト祭 12.000 クリスマス会 55.000 もちつき大会 23.000
上部団体費	110.000	
授与品費	75.000	制服 35.000 その他 40.000
事務雑費	100.000	
図書費	10.000	
慶弔費	30.000	
予備費	13.000	
計	1.423.000	

◎日野第五団

収入の部

項　目	金　額(円)	備　考
育成会より	735,000	
計	735,000	

支出の部

項　目	金　額(円)	備　考
プログラム援助費	275,000	CS隊 185,000 BS隊 90,000
備品費	50,000	CS隊 20,000 BS隊 30,000
登録・保険費	110,000	登録費 80,000 保険費 30,000
行事費	75,000	さつき祭 5,000 スカウト祭 10,000 クリスマス会 45,000 もちつき大会 15,000
上部団体費	70,000	
被服費	40,000	制服 20,000 その他 20,000
事務雑費	80,000	
図書費	10,000	
通信費	20,000	
予備費	5,000	
計	735,000	

五十八年度　役員・リーダー

◎高幡CBS育成会

名誉会長　内藤　たつ子
会　長　丁C口ワゼール
副会長　小泉　幸雄
　　永上　留次郎
委　員　岩本　光雄（会計担当）
　　田中　恵子（会計担当）
　　山手　武（行事担当）
　　中島　敞（行事担当）
　　森　明彦（庶務・いやさか）
　　島村　宣幸（庶務・いやさか）
　　上羽　譲一（教会　代表）

◎日野第二団　団委員会

団委員長　小泉　幸雄
副団委員長　志村　馨
団委員　浅井　伸一（財政）
　　八島　三朗（野営行事）
　　大木　征（野営行事）
　　加藤　長友（野営行事）
　　小池　健一（組織拡張）
　　黒川　啓子（進歩）
　　仁賀田　元（指導者養成）
　　鈴木　清美（健康安全）
　　島村　宣幸（庶務）
　　石井　早美（庶務）
　　丁C口ワゼール

◎日野第五団　団委員会

団委員長　永上　留次郎
副団委員長　金子　均也（進歩）
　　安藤　安治（指導者養成）
団委員　服部　康之（財政）
　　鈴木　陽一（野営行事）
　　佐藤　紘一（野営行事）
　　駒形　正彦（野営行事）
　　竹内　洋佐雄（組織拡張）
　　岩堀　（健康安全）

団　委　員　梅木　信子（健康安全）
　　森　　明彦（庶務）
　　J.C.ロワゼール

◎日野第二団　ローバー隊
指導者　渡辺　博隆（兼務）

◎日野第二団　シニア隊
隊　長　渡辺　博隆
副　長　ジャン・ルボ
　　石塚　俊彦

◎日野第二団　ホーイ隊
隊　長　小泉　和幸
副　長　小沼　尚文
　　市毛　俊幸
　　島田　　巌

◎日野第五団　ホーイ隊
隊　長　遠藤　正和
　　三国谷　憲隆
　　鈴木　一典
　　増岡　　順

◎日野第二団　カブ第一隊
隊　長　猪股　末男
副　長　田場　猪
　　駒形　千代子
　　市之瀬　公英
デンマザー　服部　三恵（一組）
　　田村　暁子（二組）
　　望月　良子（三組）
　　萩原　加奈子（四組）

◎日野第二団　カブ隊第二隊
隊　長　中島　敬
副　長　長谷川　勝人
　　川扇　博
　　甲田　博英
　　大木　亜雄

デンマザー　田島　恵子（一組）
　　各藤　洋子（二組）
　　田中　トミ（三組）
　　上野　光子（四組）

◎日野第五団　カブ隊
　隊　長　市之瀬　辰雄
　副　長　柏木　正行
　　尾関　博文
　　牧野　裕司
　　山田　有紀子
デンマザー　滝井　やす子（一組）
　　安藤　恵子（二組）
　　赤坂　光子（三組）
　　福田　京子（四組）

特別基金代議員会報告

昭和五十七年十一月二十八日（日）スカウトハウスにおいて、高幡カトリックボーイスカウト・ガールスカウト特別基金代議員会を開催した。代議員二十名中出席十三名で成立した。

特別基金は、預金現金残高一、五八二、二六一円あり、寄附申出着を除いて要返還着一。三名二五、五口（一、一五五、〇〇〇円）あり、差引四二七、二六一円が残るけれども、今後のこととして一、事務が煩雑でこれ以上運営困難。二、予算的に返還を前提としたのでは十分に運用できない。

のため、基金としては解散したい旨提案され、全員一致で決議された。なお、今後のＢＳ・ＧＳの施設の運営・整備のために、次の案が認められ、各団の承認を求めることとなった。

一、新たに、「施設基金」を設け、特別基金の残金を全部移行させる。現在の特別基金

の銀行口座はそのまま引きつぐ。

二、現在の特別基金要返還者には期日が到達しなくても、五十八年三月以降速やかに返還する。なお、まだ返還か寄附かのアンケートを取ってない方々にはアンケートを取ってから返還する。

三、五十八年度以降の入団者から、入団時に一人五千円の施設運営費を納入して頂き、施設の維持運営に当てる。なお、不足分あれば、バザー等で資金を集める。

四、新施設基金の運用は、日野二団、五団、東京七七団の三団から二名ずつ委員を出して、神父様を含め七名で運用して、資金の出納（使途も含めて）に責任を持つ。基金の設立者は各団育成会であり（個人加入の形はとらない）、その監査を受ける。

五、解散報告と新基金の設立報告は、各団総会で行い、機関誌に掲載する。

六、最終精算金額は返還が終了してから報告する。

以上のとおり決定しました。もし、ご疑問の点があれば、運営委員または事務局へお尋ねください。

特別基金運営委員会

小泉幸雄、武山　智、志村　馨、
築瀬　淳子、北住　敏彦、J.C.ロワゼル

事務局

長谷川　勝人、森　明彦、
（日野五団団委員　森　明彦）

五十八年度各隊年間プログラム

◎日野第二団　ローバー班

五十八年度からローバー班を作り、ローバー隊発足のステップにしたい。本年度の活動方針は次の通りである。

(1) 隊発足への準備・研究：ローバーリングとは何か・その目標・テーマを追求する。

(2) 団、カブ隊、ボーイ隊、シニア隊への奉

仕：三か月以上続けて奉仕し、その成果を発表する。

(3) 自己研鑽：リーダーになるための自覚と技能修得

(4) 信仰心：明確な信仰をもつことに励み、教会活動に参加する。

	活動テーマ	活動要領
4 5 6	"ローバーリングを考える"	月1回の定例集会確立 年間計画の立案 ├信仰心 ├奉仕 └自己研鑽
7 8 9	"自己研鑽"	各隊への奉仕実施 自己研鑽実施 社交活動（教会とのタイアップ）
10 11 12	"団内奉仕"	各隊への奉仕結果報告 自己研鑽結果報告 信仰について報告
1 2 3	"ローバー隊発足準備"	発隊スケジュール 隊組織 隊運営計画（プログラム 費用）

日野第二団　シニア隊

「常に感謝を!!」を年間テーマに、下記への連絡を目標に、次の活動方針によってスカウティングを行う。

(1) " 常に感謝を — " 年間テーマ

(2) シニアの目標と実践 — 清掃パトロール実施

(3) 班編成の確立と班長教育実施

(4) 第スカウト三名以上

月	目標	テーマ	室内活動	野外活動	奉仕活動
4	感謝を考える	団結	北八ヶ岳 記録整理	ソフトボール大会	清掃パトロール
5		友情	シニアーバンド発表	準挑戦キャンプ	さつき祭奉仕
6		向上	シニアハウス整美	技能章キャンプ	清掃パトロール
7	自然(神)への感謝	自然	夏期キャンプ準備	沢登り登山 水泳	
8		遠征		夏期野営 固定 — 移動	清掃パトロール 合同キャンプファイヤー奉仕
9		健康	スカウトフォーラム (スカウティングについて)	サイタリングキャンプ	
10	感謝出来る喜び	観察		オーバーナイトハイク 50Km	赤い羽根募金 清掃パトロール
11		奉仕	音楽会	スカウト祭キャンプ (ワークキャンプ)	スカウト祭奉仕 (身障者世話)
12		反省	クリスマスパーティー 反省会		クリスマス奉仕
1	感謝に満ちた実践	研究	北八ヶ岳キャンプ準備 山の研究、天気図		清掃パトロール
2		研究	北八ヶ岳キャンプ準備 年プロ作成		
3		挑戦	スカウトフォーラム (宗教について)	北八ヶ岳春期キャンプ (アドベンチャーキャンプ)	

◎日野第2団ボーイ隊

(2) (1)

「祈りと観察」を年間テーマに、キャンプを主体にしたスカウティング。カトリックボーイスカウトとは、どういうスカウティングをすればよいか。を重点目標にして、次の年間プログラムに従って活動する。

月	テーマ	訓練目標	行事 隊	行事 班	個人
4	友の観察	チームワークの確立	(3)入隊式(2)ちかいの式 (17) 隊ハイク	(10)班役割分担点検 (29)ソフトボール大会	
5	班の観察	キャンプサイトの設計	(30.1) 隊キャンプ。	(15) サイトの設計 (22) 班備品点検	(8) 母の日
6	飯の観察	炊事法の向上	(4.5) 隊キャンプ。	(12) 班キャンプ。 (19) 班キャンプ。	(19) 父の日
7	空の観察	さあ!! キャンプ。	(9.10) 隊キャンプ。 28へ〜1 夏期キャンプ。	(17) 班装備点検	個人 (24) 装備点検
8	水の観察	ぼくらクロンボ	(12) 備品整理 (2) サイクリング(水泳) CS(5.6.7.8.)	夏期キャンプ。 レポート作成	
9	道端の観察	独立独歩	(11) 隊ハイク(追跡) (17.18) 隊キャンプ。	(4) 読図法研究	
10	風景の観察	確かな目測		(9) 手旗訓練 (16) 〃 (23) 目測, 計測	
11	夜の観察	進級をめざせ	(12.13) オーバーナイト (27) 級別考査訓練	(6) 読図, コンパス	
12	我が家の観察	感謝の気持		(4) サイト整理 (11) スカウトハウス整理	(24) 教会クリスマス
1	体の観察	応急手当の仕方	(18) 救急法(平山城跡)	(15) 包帯の使い方 (22) 〃	
2	雪の観察	雪になじむ	(10.11.12) 冬期訓練	(5) 体力づくり (19) 体力づくり	(5) 運動能力テスト (19) 運動能力テスト
3	心の観察	豊かな心	(24.25) 隊キャンプ。	(4) 錬成キャンプ準備 (11) 〃	

◎日野第5団　ボーイ隊

月	テーマ	訓練目標	行事 隊	行事 班
4	チームワーク	班作り	(3)入隊式(2日繰り) (7)隊ハイク	(10)班会議 (29)ソフトボール大会
5	スカウトクラフト①	設営法	(21~22)隊野営	(8)(15)段階別デイキャンプ
6	スカウトクラフト②	料理法(工作法)	(18~19)隊野営	(5)(12)段階別訓練
7	冒険	キャンプだキャンプ!!	(9~10)隊野営 (28~1)夏期野営	(7)荷物点検 (24)全体整理
8	躍進	体力づくり(日焼け法)		(2)荷物整理
9	道端の観察	追跡法(ハイキング)	(11)隊ハイク(追跡法)	(4)追跡法講習 (18)班野営
10	S.O.S	計測法(通信法)	(15.16)キャンピング章キャンプ	(2)通信法(手旗)
11	夜の探検	夜の探検	(12.13)夜間ハイク(山)	(20)個人面談
12	感謝の心	感謝の心	(10.11)練成法	(4)動物園奉仕 (25)スカウトハウス清掃
1	身体の観察	救急法		(22)進級しめきり
2	B.Pの心	B.Pの心	(10~12)冬期訓練	・進級式 (19)B.P祭
3	森への感謝	自然保護(裏山開拓)	(4)道づくり (11)〃 (18)〃	

(1) 教会を意識した活動(スカウト達の心の　を重点目標にして活動する。

(2) 班・隊を中心とした活気ある班活動を中心におく

(3) 中学三年生(上班・隊付)の活動の度合として)
の明確化

(4) 「祈りと観察」を主題テーマに

◎日野第二回 カブ隊 第一隊

年間テーマ:〝冒険者たち〟太陽の子

月	日	プログラム	テーマ	指導目標
4	3	入隊式, 復活祭	すばらしき仲間たち	チームワーク 規律
	10	冒険小屋作り(骨組み)		
	24	〃 (屋根ふき)		
5	8	〃 (室内整備)		
	15	五月祭		
	22	仮舎営		
	29	食料作り(畑づくり)		
6	5	〃 (作なえ)		
	19	シンボル作り(材料自由)		
	26	〃		
7	3	ソーラーバルーン	あせを流ばして走ってみろよ	自然は 違大だ
	7	〃		
	24	レインジャー, 荷物点検		
8	5~8	舎営		
	28	キャンプファイヤー		
9	4	ウラ山(デン修理)		
	11	DAYキャンプ(デンに帰る)		
	25(土)	夜空を見上げて		
10	1	赤い羽根	自然の声が僕にとどく	自然のめぐみに感謝
	16	イモ掘り		
	30	地区ラリー		
11	6	焼いも		
	13	動物園ハイク		
	27	追跡ハイク		
12	4	歴史の旅		
	11	クリスマス準備		
	18	クリスマス		
1	8	もちつき	地平線をめざして	ホップ・ステップ・ジャンプ (新年度をめざす)
	22	タコ作り(舎営で上げる)		
	29	〃		
2	11~12	冬期舎営		
	26	立ちカマド作り		
3	4	DAYキャンプ		
	11	お父さんの職場		
	18	お別れパーティ		

年間テーマ：ぼくらはウルフカブ

月	テーマ	かつどう日	かつどうプログラム	ぼくらの目標
4	ウルフのねぐら	3	ウルフカブが生れた!!	・いつも元気
		10	ウルフのねぐら（テント作り）	
		24	〃	・スカウトのほこり
5		8	ウルフカブ、そなえよつねに（制服のたたみ方）	・たがいに
		15	ウルフカブ、きなえよつねに（ロープむすび）	たすけます
		29	ウルフの谷わたり（レンジャー）	
6	ウルフカブの冒険（ぼうけん）	5	皮ふんどうをつくろう	・自分のことは自分でします
		19	〃	
		26	命づな投げをしよう!!	・勇気
7		3	ウルフカブのしのびより	・いたわりの心
		17	ウルフカブのあいず	
		24	ウルフの点検	・勇気
8	ウルフカブ集れ!!		8月5日～8日（3泊4日）夏のキャンプ	・忍耐
		28	スカウト祭、キャンプファイヤー	
9	やみ夜のウルフカブ	4	川をとびこせ!!	・勇気と観察力
		10(土)	夜の観察ハイク	
		25	追跡だ!! ウルフカブ	
10		1(土)	赤い羽根共同ぼきん	・人のために働くこと（奉仕）
		16	カブの体そう	
		30	カブラリー	
11	ぼくらのしごと	6	ぼくらはくつみがき（工作）	・ぼくらの奉仕
		13	〃（〃）	
		27	くつをみがこう!!	
12	ウルフカブとイエズス様	4	イエズス様がお生れになる	・ぼくたちのイエズス様
		11	イエズス様がぼくたちのところへ来る	
		18	森のクリスマス	・スカウトは質素
1	ウルフの仲間	8	おもちつき	・決心
		22	世界のウルフカブ	
		29	ウルフカブに仲間入り	
2			2月11日～12日 冬のキャンプ（1泊2日）	・おさないものをいたわります
		26	雪の中のウルフ!! 仲間とともに（はんごうすいさん）	
3		4	ぼくたちの奉仕（山で）	・自然への感謝
		11	〃（町で）	
		18	月の輪 さよなら	

年間テーマ：パパラギ

月	テーマ	日	プログラム概要	指導目標
4	やって来た！パパラギ達が	3 10 24	復活祭・入隊式 パパラギの手型だ！ 〃	成長の記録
5		8 15 29	パパラギ特製巣箱（巣箱作り） さつき祭 巣箱（イモ畑）	
6		5 19 26	巣箱ができたぞ取りつけだ（ハイキング） パパラギのイカダ作りだ（夏キャンプに向け） 〃	
7	すさまじい！パパラギのパワーは	3 17 24	キャンプだホイ！（仮舎営） 力自慢だドスコイドスコイ（相模大会） 荷物点検	体力づくり
8		5 8 28	元気で行くゾ夏季キャンプ ぼくらが主役（キャンプ・ファイヤー）	
9		4 11 25	パパラギの文集づくり 大自然よ、ありがとう（生物観察ハイク） 宇宙は広いな（お月見）	
10	作るの大好き！パパラギ	1 16 30	赤い羽根 家族そろってカブ活動（収穫祭） 地区ラリー	作る楽しさ
11		6 13 27	パパラギは鳥が好きです（観察） 焼いも，焼いも	
12		4 11 18	いい音出してる（楽器づくり） 〃	
1	ガンバリマス！パパラギ	8 22 29	どこまでつづく ぼくらの夢（連だこづくり） そら飛べ大空へ（タコ上げ）	物を作るむずかしさを知る
2		11 12 26	冬季キャンプ・ 元祖　焼きもの 〃	
3		4 11 18	ガンバリマス（球技大会） 〃 月の輪　さよなら	

五十八年度の年間テーマは、「パラダギ」です。パラダギーとは、南太平洋の小島、サモアの言葉で、原始人が空を打ち破って来た強い人の意味です。

日野五団カブスカウトも、自然の中で、強い身体と強い心を養うことを目的に、このテーマに取り組んだ次第です。

（日野五団CS隊隊長　市之瀬　辰雄）

五十八年度カブスカウト新入隊員のこと

日野二団団委員　小池　健一
日野五団団委員　佐藤　紘一

五十八年度も、日野第二団、日野第五団合計二十五名の新しいカブスカウト達を迎えることができました。新入隊員の募集について、皆様のご協力に感謝いたします。

子ども達を面接する時、"休まないで、活動に出てくること"、"ボーイスカウト、シニアスカウト、それから一生、スカウト活動を続けること"ができるかなどとたずねます。子ども達は、首をかしげます。無理なことです。スカウト活動がどんなものか、わからないから。

我々の活動の場は、教会を中心とした、そして、自然のあふれる環境の中にあります。この環境の中にスカウトを溶けこませて、夢中にさせて、彼らに"素晴らしいスカウト活動を続けていこう"という意欲を持たせることが我々指導者の重い責任です。

春に新しいスカウト達を受け入れて、我々の団も新しい決意で、スカウティングを発展させねばと思うのです。

（組織拡張担当）

会計からこんにちは!!

カトリックボーイスカウトとしての質的向上をめざして

日野二団団委員　浅井　伸一

会計係、正式には財正担当の団委員を五十六年度から引き受け、はや二年目が終わろうとしています。この間、夏、冬のキャンプ、BNJ、その他日常の会計処理について、五団団委員の阪部さんと育成会委員の岩本さんとの共同プレイで、育成会会員の皆さんや団隊の関係者の皆さんのご協力を得ながら無事済ませてきました。

五十七会計年度も終わりに近づきましたが、団費各項目のうち、登録、上部団体、事務の各費目などは、赤字化し、または赤字化する見込みですが、全体としては何とかバランスのとれた決算が出来るよう、我々財政担当は努力しています。

今年は、我々がパンを得る世間の経済情勢は厳しいものがありましょう。そして、当団の財政状況も決して楽ではありません。しかし、こういう状況下でこそ、カトリックボーイスカウトとしての原点を認識し、活動を効率化し、質的向上をめざすということが必要ではないでしょうか。今年のプログラムもこの主旨に沿ったものと思います。カトリックボーイスカウトとしての精神を認識し、充実させ、そして質の向上をはかるー　このことに対する支出がとりもなおさず、会費＝予算の有効活用になるのではないかと思います。

五十八会計年度の財政も一層の健全財政でありたいと思います。スカウトの向上のための支出には可能な限り、積極的に行い、片や常に合理化も併せて行うことが必要と思います。財政を通じて支出された金銭がスカウト達にとって、真の血となり、肉となるようにしたいと思います。関係者全員とのコミュニケーションをよくして、効率的な財政運営をはかるべく、財政、会計の三名は今年も縁の

五十七年度の終わりに

日野五団団委員　柏木　正行

リーダーから団委員になって、はや一年が過ぎた。私事の用事が五月から一月までをるっけ来で、ほとんどの行事に参加するため、はじんどの行事に参加することが出ます。

夏のカブの舎営にはじめて参加した。悪後の中でのリーダーやスカウト達の活動ににする。台風にみまわれた夜、ひと足早くきたため、当逮のこわさや帰りのバスの手すぬこ車方話をあとで聞き、大変すばらし方々のご苦労話をあとで聞き、大笈すばらす。

後日のホーイのキャンプ地も、台風の影響ためテントサイトまで車が入れず、荷物の搬など大変な労力だった。

方々あった行事への数少い参加だったが、いつも精いっぱい働いていた各担当の委員他の団委員の方々の陰の力の大きさがつくすよがつくづく等と思われた。また、隊リ方がねけ。また、隊リーダーと団委員のつたでっこ密った。

本年度団委員として中途半端に終わった事を深く反省しています。野営行事の大木さん、く反省しています。野営行事の大木さん、八島さん、鈴木さん、本当にありがとうします。次年度もよろしくお願いします。

（野営行事担当）

冬季訓練を終えて

日野五団BS隊副長　増岡　順

五十七年度冬季訓練は、昨年と同じく新潟県妙高原で行われました。

プログラムも、ほぼ昨年と同じもので、一級と初級、二級スカウトに分かれ、一級スカウトは一日早く出発して、二日間の野外活動、初級、二級スカウトは一日遅れで出発し、一日の野外活動を一級とともに行った後、全体で二日間スキーをするといった内容でしたが、今年の場合は、そのプロを行うのに非常に苦労しました。

その理由というのは、雪の絶対的不足です。昨年の場合は、一級スカウトは宿の外に雪の壁をつくり、その中に小テントをはって一泊しましたが、今年は雪がまったくといってよいほどなく、中止せざるをえませんでした。(中にはホッとしたスカウトもいたようですが)また、雪上でやろうと考えていたワカン(かんじき)訓練やゲームなどものさなみ中止となり、リーダーはプログラムの修正に大わらわでした。ようやく、雪が多少残っている場所を見つけて、雪合戦やソリ遊びなどをすることができ、雪の中で走り回るスカウト達を見てホッとしたものです。とくに、リーダーを交えての雪合戦はかなり盛り上がって日頃の恨みをはらすべく(?)スカウト達の集中攻撃を受けました。ただ、こういった遊び的要素のプロとは違った、本当の意味での雪上訓練(とくに一級に対しての)が中止になったのは、本当に残念でした。

そして、もう一つのメインプロのスキーですが、こちらも、現地のゲレンデが使用不可能で、対策をあれこれ考えた結果、バスで三十分程の赤倉スキー場で行うことになりました。しかし、スキー前日までは、こちらも雪不足で、最悪の場合、スキーは中止ということころまで追い込まれてしまい、スキー前日の晩に、神父様と、明日は雪が降って、みんな

て楽しくスキーができるように、スカウト・リーダー全員でお祈りをしました。そして、翌朝起きてみると、何と！本当に雪が降っていっではありませんか。神様の御加護に感謝しつつ、予定通り、赤倉スキー場でいおもい子大のスキー部員五名にコーチとして参加してもらい、スカウト達も、ごつい男のリーダにあまあきしていたせいか、とても喜んで、いたようです。（スカウトだけでもなかったようですが）その甲斐あってか、スカウトのスキー上達も早く、最終日には、ほとんどのスカウトが、なんとかゲレンデの上から下まで、転ばずに滑ってこられるようになりました。全体を通してみると、スキーは結果的に、満足のいく内容となりましたが、野外訓練の方が、十分にできなかったということで、リーダーとしては、少し残念な気もしますが、普段めったに見ない雪の中での活動は、スカウト達も満足してくれたものと思います。

また、冬季訓練最後の晩に、上進式及び修章の授与式が行われました。特修章を、う十個以上とったスカウトも多く、一日もく、まだ一つも特修章をとっていないスカにもいるようですが、ここで一発やる気をして、がむしゃらにチャレンジしてほしい思います。

最後に、今回の訓練にあたって、いろいと援助・アドバイスをしていただいた、ロゼール神父様をはじめとする団委員の方々深く感謝します。

団委員会報告

（五十七年十月～五十八年二月）

◇十月一日　赤い羽根募金にカブ隊ボーイが参加し、高幡不動、動物公園、百草園南平、平山城跡公園各駅前・高幡台・百センター各バス停にて実施

◇十月十五日（金）第四回拡大団会議

① スカウト祭について　十一月七日に昨年同様七生厚生園の障害者の方をお客さまにディキャンプを行うことに決定。BS、GS合同で縦割りとする。小雨決行。

② 日野市文化祭について　十月三十一日より十一月三日まで日野市公民館において例年どおりボーイスカウト、ガールスカウト展を開催する。本年の担当は日野五団とGS東京七十七団となったので、立かまど、春山道具一式、ボーイとカブの制服などを展示する。各団の展示は三十日夕方準備し、三日夕方撤去する。三十一日と一日に説明員を出す。当日共同の入団受付もする。もよりの団を紹介する。

③ 地区ラリーについて　十月三十一日稲城第六学校々庭にて行う。この日シニアは前夜からオーバーナイトハイキング（五十キロ）を行う。

④ 全国キャラバンについて　世界ボーイスカウト年、日本連盟創立六十周年記念全国キャラバンは十月三十日町田市から多摩市に入り、稲城市へ行く。十月三十一日稲城市から日野市、八王子市へと進む。各団スカウト四名参加。

⑤ 新入団員面接は十一月十四日午后一時からに変更。

◇十月二十四日（日）　第六回団委員会

① 日野市文祭について　担当者決定

② 地区ラリーと全国キャラバンについて　奉仕者決定。結局十月三十一日はオーバーナイト二名、地区ラリー二名と救護班二名、キャラバン四名、文化祭二名と分担する。

③ スカウト祭について　十一月三日草川をする予定。プログラムは実行委員会で立案する。

④ 高幡カトリック教会献堂式について　十二月五日挙行、代表だけ参加。

⑤ 日本キリスト教団高幡教会（プレハブ

を奇聴して頂いたところ）の落成式にお祝い金を支出。

◇十一月三日（水）　第七回団委員会

① 新入隊員募集状況　現在二年生十九名応募。文化祭では殆ど応募なし・面接は十一月十四日・担当者決める。

② ボーイ隊冬季キャンプについて　下見の結果報告あり。妙高五輪スキー場へ昨年同様に十二月二十五日夜から十二月三十日までの予定で出かける。

③ 教会献堂式について　十二月五日は信者中心なので、スカウト関係は十二月十九日のクリスマス会で披露する。

④ 特別基金代議員について　次の十二氏を代議員に指名した。小泉、武山　志村、浅井、服部、長谷川、森、橋本、渡辺、金子　猪俣一　岩本

⑤ スカウト祭について　七生厚生園からは五、六名招待する・リフトカーが送り迎えしてくれる。新入隊員父兄にも見学を呼び掛ける。

食費予算は四万五千円以内・小雨決行。

◇十一月七日（日）　スカウト祭

あいにくの雨模様の天気で、七生厚生園の招待者は中止した。幼稚園々庭でミサのあと、十六班に分れて、お客さまなしのデイキャンプを折から降り出した雨の中で行った。

◇十一月十四日（日）新入隊員面接

◇十二月五日（日）　高幡カトリック教会献堂式　団委員、リーダー、シニア隊、ボーイ隊が奉仕

◇十二月十二日（日）第八回団委員会

① クリスマス会について　十二月十九日午後一時より行う。新入隊員も招待する。

② もちつき大会について　一月九日行う。杵、かまどを点検しておく。予算合計三万五千円以内

③ ボーイ隊冬季キャンプについて　予算は二百七万余円。積立金、夏季キャンプ

残金、スカウト個人負担金（一人二万五千円）、リーダー個人負担金（一人一万円）で賄う。スキーコーチ団としてプロコーチ四名の他、大妻女子大スキー部員が五名指導してくださることになった（ガールOG北住さんの関係）。団委員連四名奉仕。ガールから三名ほど同行申込あり。北住さんが面倒を見てくださることを条件に認める。

一級スカウトは十二月二十五日夜出発、本隊は二十六日夜出発、三十日夜帰京。雪中訓練及びスキー（二日間）を行う。参加スカウト五十名の他シニア一名同行の予定。

④ 車両管理について　夏季キャンプで使用した滝瀬さんのバンは団で使用することにして車検を取った。管理責任者は志村、大木両代。一日三千円で希望者に使用を認める。

⑤ 日野市ボーイスカウト、ガールスカウト連合協議会について　来年度の会員は積局的に募集することにする。

⑥ 財政事情について　光熱水道費、印刷代（コピー）、登録費等上昇の見込み

⑦ 新ハウス建設会計報告

建設総費用　二〇〇、七九七円

収入　特別基金からの支出　一五〇、七九七円

連合協議会からの補助　五〇、〇〇〇円

計　二〇〇、七九七円

⑧ 特別基金代議員会報告　別記の通り

◇十二月十九日（日）　クリスマス会

午後一時よりセレモニー、スタンツ、ゲームあり。そのあと新聖堂でミサ。教会からスカウト全員にプレゼントあり。

◇一月九日（日）もちつき大会　仮入隊式

午前十時集合、セレモニー、各隊集会（カブは仮入隊式も）のあともちつき大会。六十キロを餅につく。

◇一月九日（日）　第九回団委員会

① ボーイ隊冬季キャンプ報告　参加スカウト四十九名、雪がなくて赤倉チャンピオンスキー場まで往復に八万円かかった。

② カブ隊冬季キャンプについて　二月五日～六日、山中湖「さくすい」に一泊で行う。団委員は一名奉仕。

③ 年度末日程調整、団の構成を協議。

◇一月二十三日（日）　第五回拡大団会議

五十八年度の年間プログラム編成に向けて育成会、団の方針を示す。

育成会　① 円滑なる財源の確立をはかるため財政委員の設立。

② 新しい特別基金（設備資金）の運営。

団　① 昭和六十年（二団十五周年、五団十周年）に向けて、富士スカウトの育成と、記念事業の準備。

② 近隣地域との関わりの強化。

③ カトリックボーイスカウトとしての自覚をもつ。

④ ローバー隊の発足へ向けて準備する。

⑤ 南多摩地区への協力。

⑥ おさてとさだめの実践。

そして、具体的には日常プログラムを充実させ、進歩章の取得に力を入れる。表彰をキチンとする。また親同士協力して子供の成長を図るため、親の班集会も開く。

◇二月六日（日）第十回団委員会

① 五十八年度の団プログラム作成　特にスカウト祭を八月のキャンプファイアーと同日にすることに決定。十一月の隊プログラムに余裕をもたせるため、会議としては

団委員会　毎月一回以上

団会議、隊長会議の何れかを隔月一回

進歩会議、団会議、隊長会議のある月はそのとき、ない月は必ず月一回

野営行事会議　行事の前に開く

BS・GS連絡会議　年六回開く

また、教会との交流を図り、たとえばもちつき大会に教会の皆さんを招待する。

② リーダー練成会　二月十二日～十三日に、教会三階で開く。目標は観察力を育てること。リーダー自ら観察力を育てよう。

③ 五十八年度登録は三月九日（水）校実

施する・登録費一人四百四十円値上げ。
④ 新入隊員は十二月以降の入隊希望者を含め定員一杯となる。
⑤ 五十八年度人事・予算を協議。

◇二月十二日(土)ー十三日(日) リーダー錬成会、教会において、内容は、① 信じる・② 神の言葉・③ リーダーの使命。④ 教会とCBSとしてのスカウト・引きつづき、五十八年度プログラム会議を開催。五十八年度のテーマは「観察」・各隊のプログラムは別記。人事案も決定した(内容は別記)。なお、今回退任される育成会委員橋本氏、二団団委員島田さん、五団副団委員長武山氏の三氏に対し、多年の功績を称え、感謝状を贈呈することにした・

◇二月二十日(日) 第十一回団委員会。予算案を決定した・内容は別記。

◇二月二十七日(日) 育成会総会

(日野五団団委員 森 明彦)

58年度リーダー・スカウト数

	リーダー	スカウト	計
高幡CBS育成会	11		11
日野2団団委員会	13		13
日野5団団委員会	14		14
日野2団ローバー班	1	6	7
日野2団シニア班	3	25	28
日野2団ボーイ隊	4	40	44
日野5団ボーイ隊	5	39	44
日野2団カブ1隊	8	28	36
日野2団カブ2隊	9	28	37
日野5団カブ隊	9	28	37
計	77	194	271

スカウト豆辞典

"世界スカウトの年"

一九〇七年（明治四〇年）、ベーデン、パウエル卿が、からす班々長　イーバンズ、ロンベ君他二十人の少年たちを、おおかみ班、牡牛班、たいしゃくしぎ班の四つに分け、イギリス、ドーバー海峡のブラウンシー島でキャンプの実験を行い、スカウテングをはじめてから、昭和五十七年で七十五周年目にあたります。それで世界各国では、人々にボーイスカウト運動をよく知ってもらうため、たくさんの企画がなされています。

日本では、一九八二年二月から一九八三年八月までの一年半を「世界スカウトの年」と定め、いろいろの記念事業を計画しました。

また、大正十一年（一九二二年）に少年団日本連盟が創立されてから六〇周年目にあたりますので、記念事業もあわせて企画検討されました。

私は、日本連盟のできる一年前に少年団に入りましたので、六十二年間いろいろの変化を見てきました。

昭和十六年、私は日本にいませんでしたがボーイスカウトは敵性少年団として解散を命ぜられ、大日本青少年団に統合され、終戦後いち速く世界連盟に再加入を認められました。

六十年を省みて、今後の向上発展につとめたいと思います。

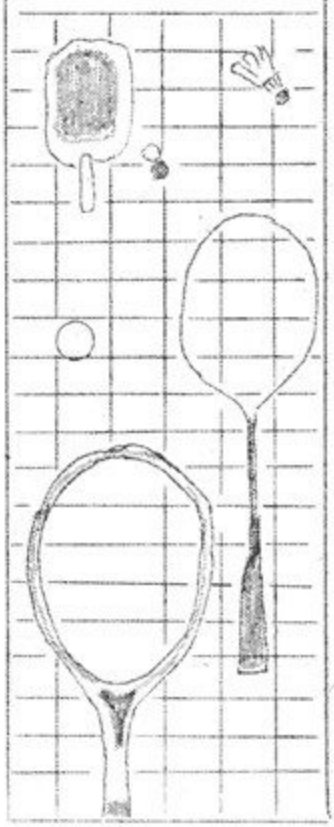
第一に先進国では出生する人口が減り、スカウト人口も少くなっていますが、開発途上国では反対の現象が見られます。

もしスカウトの数がふえなくなれば、量より質を第一としたいと思います。

学校の集団暴力をはじめ青少年の非行化が社会問題となっている今日　家族　信仰と奉仕を要したっている運動以前に青少年こそ

から守る手段はないと思っています。
世界スカウトの年にあたって、スカウトやリーダーの皆さんと力をあわせて、一層ほんとうのスカウト運動の向上発展に励みましょう。

（日野五団団委員長　水上　留次郎）



編集後記

○昭和六十年は、日野二団の十五周年、日野五団の十周年にあたります。十五周年、十周年を盛大に祝えるように、本年度から、スカウティングの充実と財政の確立を目ざしてそれぞれのプログラムが組まれています。育成会員の皆様の一層のご協力をお願いします。

○日野二団では、シニアスカウトがそのあとも充実したスカウト活動が続けられるように、ローバー隊を発足させることに決定しました。本年度はその発足の準備としてローバー班を新しく作りました。活躍を期待します。

○島村宣幸氏（高幡CBS育成会委員、日野五団団委員）が「いやさかし」の編集に五十八年度から新しく加わられます。新しい装いの「いやさかし」が皆様のお手元に届けられることと思います

（H）

カブ隊
冬季キャンプ
(2/6～7
山梨・山中湖)